

「南部圏域部会」の開催結果概要について

参考資料3

1 開催内容

日時 令和4年8月30日(火)午後4時15分から午後5時5分まで
 場所 徳島県南部総合県民局 阿南庁舎2階 大会議室
 出席者 南部圏域部会委員19名中WEBを含め15名
 議題 新たな総合計画の策定方針について

2 意見概要

番号	分野	意見の内容
1	・子育て ・観光・魅力発信	県内在住者、移住者ともに過ごしやすく、子育てしやすい環境作りが非常に重要になってくる。 今年は多くの観光客が県南に来ていただき、喜んでいただいた。県内でも知られていない自然の魅力をもっと発信していく取組が必要。
2	・人口減少・高齢化	現在、徳島県で起こっている問題の根源として、人口減少・高齢化があり、水産業においても、担い手不足が危惧されている。 人口減少を食い止めるには、出産数をあげるか、海外から人を受け入れるかの2点しか改善方法がないと感じる。 現状、県南では2人に1人が高齢者という現実があり、人・モノ・お金の流れを止めないためにも、出産数が好転しないのであれば、本格的に世界から人を受け入れる必要があるのでは。 一気に受け入れることは難しいので、たくさん問題を解消しつつ、具体的な数字を決め、着々と行動計画を遂行していただきたい。
3	・人口減少	県南の若手には、着ている服がどのように作られているか、どれだけ着られるのかということや井戸の水や湧き水を汲んでくるといったスローな生活でありながら、海や環境が好きで子どもたちとゆったりと暮らしたいという人たちもいる。心の豊かさを感じる機会があり、人口減少に対するヒントのようなものが隠されていると思った。 阿南同友会で、日本一のものづくりができていれば、人は来るんだということを知った。人口が減っていくということはあると思うが、自分たちにできることは何なのか。高みを目指し、意見が合う人を引っ張ってくる力を持っていれば、会社単位でいうと維持・発展できるかもしれない。
4	・人口減少・高齢化 ・1次産業 ・伝統文化	40年後は、人口減少・高齢化が一層進むことが想定。阿南市の水道料金も向こう30年程度は値上げの必要がないとのことであったが、災害が発生すると変わってくると思う。 災害時は、食べるのが一番なので、食育について小さい頃からテーマに入れるとともに、農業・漁業などの1次産業の強靱化が必要。 演奏者が海外へ行ってしまう。日本に呼び込むためには、剣道、柔道、書道、華道、茶道など「道」のつく日本の伝統文化の見直しが必要。 人口減少に歯止めをかけるためには、働き手をもっと積極的に外国から人を呼び込むべき。
5	・人口減少	2060年頃を見据えると無人化しているのではと感じている。 どうにかして街が形としてあるように、人を増やしていかないといけないが、人ごとと思わずに、一人ひとりがどうやって人を呼び込むのかということを考えて行動しないといけない。
6	・人口減少 ・1次産業 ・防災・減災 ・働き方	40年後の日本について調べてみると、何もかも縮小して暗くなることばかりであり、ほぼ1人で1人を支えるという恐ろしいことになっており、私たちは支えてもらうという考えを今すぐ捨てるべき。高齢になってもどうすれば自立していられるかということの本気で考えないといけない。生きていくためには、食べていかないと行けないので、1次産業の特に食べ物に携わることをしていかないといけない。 これからは、デジタル化が進み、テレワークが主流になり教育にもその流れができ、住むところが選べるようになる。そのとき、徳島を選んでもらうためには、災害に強いということが大前提になる。堤防を高くするのではなく、津波の危険が少ない場所へ移動するということを検討すべき。 また、ダブルワークが主流になると思うので、テレワークの仕事と1次産業の畑など、高齢者でもいつまでも自立できるような環境、子育て世代も自立しながらダブルワークができ自然豊かなところで住みたいと思ってもらえるような環境作りを進めるべき。

番号	分野	意見の内容
7	・防災・減災 ・高齢化	徳島県では、(震災時の)死者ゼロを掲げて頑張っているが、高齢者の時代となり、それを守っていけるのかという部分もある。 私もいろいろな組織、団体と組んでやっているが、自分たちだけの力では、もう何もできないような気がする。だから、いろんな範囲を広げてみんなで立ち向かわなければいけない問題だと思う。
8	・環境	2060年頃、人が住んでいける地球が保っているのだろうかと感じる。今ある大自然をいつまで保っていけるのか。本当に山は荒れていっている。 人口減少についても、滅亡集落という状態になってきている。山奥が崩壊してしまうとその下流の発展もないと思う。 これからも自然環境を重点的に考えながら取り組んでいただきたい。
9	・1次産業 ・人口減少	人口減が甚だしく、1次産業に取り組む若者がいない。いかにして、この2060年に向けて人口を維持していくかということが喫緊の課題と思う。 ロシアによるウクライナ侵攻や東南海地震はじめ、いつ起こるか分からない自然災害などへの備えとしても、1次産業を見直し、国を挙げて取り組んでいただきたい。
10	・林業 ・環境 ・木育	本質はどの時代でも変わらないので、変わらないものを追求していきながら、長期・中期ビジョンを見据えてどうするのか。我々は40年前から環境を考えて、どうしたら生きとし生けるものが山の中で住み続けることができるのかということを追っている。 今年は林業関係者に加え、子ども連れの一一般市民の方や70代の方なども視察にお越しいただいており、心の豊かさや安心感を求めているのではと思う。 民間なので経済性も追求する必要があるが、近年の全国での災害などを見ると、これからはやはり環境にシフトしていかないといけないと感じる。 豊かな自然や持続可能という言葉が現行計画にも出てくるが、これはものすごく難しい。現場での少しずつの積み重ねを環境に置き換え、観察する力をつけ、それが子どもたちへの教育につながっていくと思う。 木育も、子どもだけでなく大人も含めて取り組む必要があり、視察に来ていただく方の柔軟な発想を通じて私たちもいろんな発見がある。 大きい規模の林業だけでなく、多様な林業の形を示していく必要がある。豊かな自然を育てながら、林業をやってほしいと思う。
11	・生物多様性と 1次産業の振興	生態系の保全と1次産業は直結するものであるため、自然環境・生態系の保全と1次産業の活性化を結びつけられるような地域戦略ができればいい。また、それを動かす市民協働のネットワークができればいいと思う。
12	・観光 ・防災・減災 ・芸術・文化	全国から来られる方はその地域で遊びたいと思っているので、観光マップもそれぞれの説明を入れて、物語がわかるような形で発信できれば。 徳島城公園に行った際、電線がないことに気付いた。電柱の地下埋設はあまり進んでいないように思うが、電柱が倒れない、電源が切れないような土地になってほしい。 現行計画の中で、「未来を創造するたくましい若者が世界を舞台に活躍しています」という文章があるが、本当に世界に行ってしまう。 特に、演奏家に限って言えば、日本人の多くの若い演奏家たちが海外に拠点を置いている。 海外で暮らすことで、文化芸術的な刺激、学びや自分を活かすチャンスも多いと思うが、日本でもそういう芸術家たちの住みやすい環境を作っていく必要があると思う。
13	・観光振興	観光について考えると、単独の市町の頑張りだけではどうしようもないと思う。 四国の右下観光局を中心に、県南1市4町が1つとなって、関西圏からの観光客を呼び込めるよう協力してやって参りたい。
14	・情報発信	SNSでの広報は、お金が掛からず、軽量化して報告しやすいので行政が好んで利用していると思うが、競合が多いという面もある。割り切って、都会の駅や電車内でのターゲットを絞った広告が有効である場合もあると思う。SNSで小さくアピールして発信してもしょうがないのでは。